

事例 14 内容項目 2－(3) 友情・信頼

つながる私～自分・仲間・家族～

道徳 第5学年

七尾市立中島小学校・教諭

1 事例の概要

学級の中に自分の居場所をもち、相互に高め合っていける土壌を作りあげていくことは、学校における児童の健やかな成長にとって、必要不可欠なものである。

学校には様々な教育活動が設定されており、それぞれに価値がある。道徳の時間は、児童にとっても、学校の教育活動にとっても極めて重要な時間であり、児童の健やかな成長を考える上で核を成すものである。だからこそ、週に1時間の道徳の時間は児童にとって貴重な時間となる。道徳の時間の中では、児童が資料などに込められた様々な道徳的価値について考え、考えたことを自分の現在の姿と結びつけながら見つめなおしていく活動が求められる。さらに、道徳の時間での「気づき」が、その後の児童の行動に生きていくかどうかとも重要である。児童が、自ら学んだことを深化させ、道徳的実践力へとつなげていくためにはどうすればよいのか。

本校の教育目標「考え、輝く子」を土台とし、これまでの実践から考えた道徳の基本を考え、総合単元計画を作成し実践に当たった。

A-1 基本的考え方(道徳をどう見るか)

A-2 総合単元計画

2 実践内容

(1) 主題設定の理由

これから思春期を迎え「心の揺れ」を感じ始めていく児童たち。友だちの些細な行動が気になり、友だちとの関係を保つために、それが相手のことを本当に思いやった考えであっても、伝えることを避けてしまい、どうしても自分の気持ちを素直に伝えることができない姿も見られるであろう。児童が友だちと認め合い、助け合うことがどのようなことであるか、人と人との間に存在する「友情・信頼」というものがどのようなものであるかを考える良い機会になればと考えた。

(2) 指導上の工夫点(視点)

① 導入・終末の工夫

- ・友情・信頼というものが、どのようなものであるかを考えていく機会となるためにも、導入の部分では、価値への方向づけとなるよう、視覚に訴える手立てをとる。
- ・終末の持ち方も、単なる教師の説話ではなく、価値と関わる曲を流すことで、児童の心に道徳的価値を深く植え付けるという試みを施す。

② 発問の工夫

- ・児童への切り返しの発問が大切になる。児童が発言したことをもう一度深く考えられるように、「なぜ?」「どうして?」といった教師の言葉かけをすることで、児童のつぶやきを拾い上げることを大切にしていく。
- ・児童が本時の価値に関わることでどんな経験をしてきたのかを把握しておくことも重要になる。

③ 板書の工夫

- ・資料から考えたことなどが表現できている板書を心がける。
- ・児童の共有のノートが黒板。児童の考えが積み重なっていくような板書づくりをする。
- ・色チョークの使い方にも注意をしていく。使い方により、際立たせてしまうと多様な意見が出にくくなったり、無理やりねらいとする価値へ落とし込んでしまったりする危険がある。

④ 評価の工夫

- ・児童一人ひとりの考えを受け止めたコメントを書く。(道徳の時間にねらいに到達せずとも良い。一つ一つの積み重ねがいつか実を結ぶことを信じることが重要。)
- ・児童が改めて自分を見つめなおすことができるようにする。【道徳ファイル作成】
- ・友達がどんなことを考えたのかを知る機会を設定する。 【教室の環境整備】
- ・保護者にも児童が道徳でどのようなことを考え、成長してきたのかを見てもらう。【児童へコメントを書いてもらう。保護者として、大人として、一人の人間として。】

B-1 授業の様子(板書を含む)

B-2 評価の工夫について

3 指導の実際

	学習活動	児童の活動と意識の流れ	支援(○)と評価(◎)
展開 (35)		<p>《「友のしょうぞう画」という作品を見つけたとき、 和也はどんな気持ちになったのでしょうか。》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのことを忘れていなかった。ありがとう、正ちゃん。 ・離れていても、二人の友情はいつまでも変わらない。 ・ぼくのことを思って、この作品を一生懸命作ってくれた…。 	<p>○「和也」の気持ちを中心にした発問をすることで考えを深めていけるようにする。</p> <p>◎友情について考えている。 (発言・ワークシート)</p>
	自分自身のこと を考える。	<p>〈今までに、友達のことを思って、助けたり励ましたりしたことがありますか。それはどんなときですか。〉</p> <p>自分の経験を話す A 君に共感する B 君の姿…。</p>	○より深く自己を見つめるために、その時の気持ちや考えまで問いかける。
終末 (5)	教師の説話を 聞く。	<p>〈最後に、先生から1組のみんなへ 詩を贈ります。〉</p>	○友情をテーマにした曲を流す。

C-1 指導案

C-2 児童の感想

4 成果と課題

(1) 成果

この資料を扱うには児童の実態から考えると少し早い気もしたが、友達との関係で悩んでいる児童から相談を受けていたことや、振り返り日記でも、友達に関する内容が多く見られたことで扱うことを決めた。切り返しの言葉(「なぜ、どうして」)を投げかけることと、友達が発言したことをどう考えるか(「○○さんはこう言っているけれど…。どう思う。」など)を問いかけることで、児童の心を再度揺り動かすことができた。特に切り返しの発問は、自然な形で児童が資料から離れることができ、自分自身を見つめることにつなげることができた。また、自分の経験を話すAさんの内容を聞いて、B君が「おれも、あるな…。」と共感的なつぶやきをした。そのつぶやきから、さらに友情・信頼について考えることができた。終末には親友への思いを綴った歌詞を紹介した。児童自身のまとめと教師自身の自分の授業の評価という視点から感想を書く時間をとり、紹介した歌詞の曲をかけた。その曲は全員の心に響いたようで、後に学級の歌となった。

(2) 課題

ねらいとする価値を深化させ、実践力へとつなげていくためには、総合単元計画を児童の実態にあわせて柔軟に変化させていく必要がある。「道徳は到達目標ではなく向上目標である」ことを心がけながら教育活動全体に波及していくような取り組みを創意工夫していく必要がある。